

平成27年度香川県麦づくり推進研修大会 資料

平成27年8月3日（月）

香 川 県 農 業 再 生 協 議 会

平成27年度香川県麦づくり推進研修大会 次第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 平成26年播き香川県麦作拡大コンクール表彰式

4. 研修内容

- (1) 「平成27年播き麦の生産拡大方策について」
(香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 岡崎 高典)
- (2) 「平成27年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について」
(香川県農業協同組合 営農部 農産販売課 課長 北岡 泰志)
- (3) 「最近の気象変動に対応した麦の生産技術について」
(香川県 農政水産部 農業経営課 課長補佐 藤田 究)

5. 基調講演

- (1) 全国へ広がる“さぬきの夢”小麦粉～その新しい“食と健康”の世界～
(講師:香川県製粉製麺協同組合 理事 吉原 良一 氏(吉原食糧(株)))
- (2) 国内産麦の需要と生産について
農林水産省生産局農産部貿易業務課消費流通第2班
需給調整第3係長 前田 久紀 氏

6. 質疑応答

7. 大会宣言・ガンバロー三唱

8. 閉 会

「平成27年度香川県麦づくり推進研修大会」開催要領

1. 開催目的

本県産麦については実需者から高く評価されており、その需要に即した麦の生産拡大が図れるよう関係者が一丸となって推進している。特に小麦については、需要量に対する生産量が不足していることから、ますますの作付拡大と安定生産体制を強化していかなければならない。

そのような中、平成27年産からの経営所得安定対策等の対象要件の変更に対応した認定農業者や集落営農などの経営体への移行や県事業等を活用した麦の生産体制の強化など、麦の生産拡大に向けた取り組みをさらに推進していく必要がある。

そこで、県内の麦生産者等を対象に、麦作技術や生産拡大に向けた支援措置等について情報提供を行い、生産拡大とともに、単収増や品質向上を目的とした研修会を開催する。

2. 日 時

平成27年8月3日（月） 13：30～16：30（受け付け開始12：30）

3. 場 所

丸亀市綾歌総合文化会館「アイレックス」 大ホール
（住所：丸亀市綾歌町栗熊西1680番地 TEL：0877-86-6800）

4. 主催等

主催 香川県農業再生協議会

共催 香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合、かがわ農産物流通消費推進協議会

5. 参集範囲

県内麦生産者・団体、県内実需者団体、地域農業再生協議会、市町、香川県農業共済組合、中国四国農政局高松地域センター、香川県農業会議、農業委員会、香川県農業協同組合、香川県農業協同組合中央会、香川県

6. 研修会内容

1) あいさつ

2) 平成26年播き香川県麦作拡大コンクール表彰式

3) 平成27年播き麦の生産拡大方策について（香川県農業生産流通課）

4) 平成27年播き麦の需給動向及び取組方針について（香川県農業協同組合）

5) 最近の気象変動に対応した麦の生産技術について（香川県農業経営課）

6) 基調講演

①講師：香川県製粉製麺協同組合 理事 吉原 良一 氏（吉原食糧（株））

②講師：農林水産省生産局農産部貿易業務課消費流通第2班

需給調整第3係長 前田 久紀 氏

7) 大会宣言 ガンバロー三唱

目 次

「平成 2 7 年播き麦の生産拡大方策について」	1
「平成 2 7 年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について」 . . 7	
「最近の気象変動に対応した麦の生産技術について」	13
基調講演①	
全国へ広がる“さぬきの夢”小麦粉～その新しい“食と健康”の世界～ . . . 24	
基調講演②	
国内産麦の需要と生産について	28
大会宣言	34
平成 2 6 年播き香川県麦作拡大コンクール受賞者一覧	35

平成 2 7 年播き麦の生産拡大方策について

香川県 農政水産部 農業生産流通課

課長補佐 岡崎 高典

平成 27 年播き麦の生産拡大方策について

香川県農業生産流通課

～平成 27 年播き麦のスローガン～
**作付面積1割拡大、単収 2 割アップで小麦「さぬきの夢2009」の
 生産拡大を図ろう！**

○作付面積 1,606ha(平成 26 年播)⇒1,750ha(平成 27 年播)

○単収 309kg/10a(平年単収)⇒360kg/10a

1. 26年播き(27年産)麦の生産の状況と課題について

播種については、10 月下旬から 11 月中旬にかけて好天に恵まれ、土壌条件が良好であったため播種適期に当たる 11 月中旬までの播種作業は順調に進み、概ね 11 月下旬までに播種作業を完了した。作付推進と天候に恵まれたことから小麦を中心に作付拡大が進んだ。

収穫については、はだか麦は好天に恵まれ作業は順調に進み、概ね5月末までに収穫を終えた。小麦の収穫は四国地方の梅雨入りの6月3日までに全体の約半分は終了したものの、梅雨入り後は雨の合間を縫っての収穫作業となった。

収量は冬場と春先の降雨による湿害等の影響により、平年を下回る見込みである。

表 1 26 年播き麦の作付状況 (単位 : h a)

区分	26年播	25年播	増減
	共済引受面積	共済引受面積	
小麦	1,606	1,432	174
はだか麦	905	918	▲13
2麦種計	2,511	2,350	161

表2 麦の播種時期と単収について(24年～26年播の比較)

区 分	26年播(27年産)		25年播(26年産)		24年播(25年産)	
	11月末 進捗率	95% 完了期	11月末 進捗率	95% 完了期	11月末 進捗率	95% 完了期
小麦	82 %	1 月上	43 %	1 月上	81 %	12 月下
単収	302kg/10a (JA 荷受推定)		317 kg/10a		375 kg/10a	
はだか麦	87 %	1 月上	52 %	1 月上	89 %	12 月上
単収	271kg/10a (JA 荷受推定)		269 kg/10a		379 kg/10a	

2. 県産麦の需要動向について

実需者からの平成 28 年産購入希望数量は、小麦 7,310t、はだか麦 2,365tである。(表3)

【小麦:さぬきの夢 2009】

「さぬきの夢2009」については国産小麦として最高値で取引されており、販売(生産)予定数量に対し、購入希望数量が大きく上回っている状況が続いており、実需者からは、需要に応じた生産拡大が強く求められている。

【はだか麦:イチバンボシ】

実需者から、本県産イチバンボシの品質の良さは評価されているものの、安価で安定供給が見込める二条大麦への需要転換が進むなど、近年、購入希望数量は減少傾向であったが、28年産の購入希望数量は増加した。

表3 実需者からの購入希望数量

	平成 28 年産	平成 27 年産	
	購入希望(t)	購入希望(t)	販売予定量(t)
小麦	7,310	6,561	4,760
はだか麦	2,365	1,812	2,300

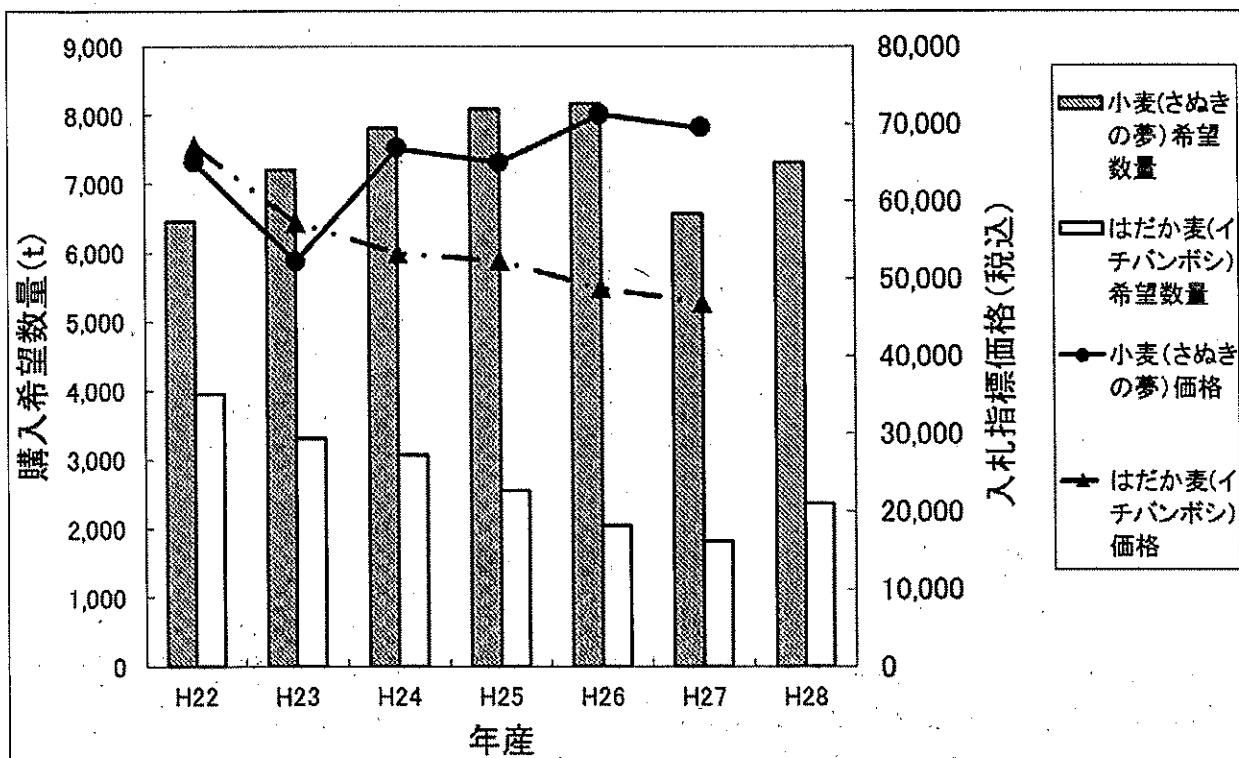


図1 香川県産民間流通麦の購入希望数量と入札価格の暦年推移

3. 27年播き(28年産)麦の生産拡大目標の設定

【小麦:さぬきの夢 2009】

単年度での購入希望数量の確保は困難であるものの、希望数量に段階的に着実に近づけるよう、収量性の高い「さぬきの夢 2009」の特徴を活かして、27年産生産量を上回る生産量の確保と、さらなる面積拡大(目標面積1,750ha)とともに単収向上に向けた取組みを強化する。

【はだか麦:イチバンボシ】

需給状況を考慮して850haとする。

表4 26年播き(27年産)麦の生産量の目標

(単位:t、ha)

区 分	27年産見込	28年産目標		拡大 目標 B-A
	共済引受 面積A	生産量	目標面積 B	
小 麦	1,606	6,300	1,750	144
はだか麦	905	2,600	850	▲55
2麦種計	2,511	—	2,600	—

表5 27年播き(28年産)小麦の地域別生産目標(案)

(単位:t、ha)

地 域	生産量の目標と単収向上効果		作付面積 (ha)		
	最低確保水準 A = ② × 309kg/10a	増産目標水準 B = ② × 360kg/10a	27年産①	28年産 目標②	拡大 ③=②-①
大 川	683	796	203	221	18
中 央	2,061	2,401	612	667	55
綾 坂	816	950	242	264	22
仲多度	1,264	1,473	376	409	33
三豊・豊南	584	680	173	189	16
県 計	5,408	6,300	1,606	1,750	144

但し、①は農業共済引受面積(種子面積込)

4. 27年播麦の作付拡大に向けた重点的な取り組み

集落営農の組織化や園芸主体の認定農業者への麦の新規作付の推進、既存の麦生産者の農地集積等により作付面積の1割拡大、播種前の排水対策の徹底による適期播種、基本技術の励行による単収の2割向上を目標に平成27年播き麦の生産拡大を強力に推し進める。

1) 単収向上の取り組み

近年、播種期や生育期間中の降雨の影響により、収量が不安定となっており、播種前の排水対策の徹底によるほ場の乾田化、適期播種、生育期間中の排水対策等基本技術の励行により、単収の向上を図る。

2) 担い手の経営形態に応じた生産拡大について

経営所得安定対策等の対象となる認定農業者や集落営農などの経営体への移行を支援する。また、麦作を経営に取り入れることのメリットを周知し、麦の新規作付者の掘り起し及び米麦二毛作体系を推進する。

表6 経営所得安定対策による麦の収益性（10a）27年産試算例（単位：円）

区分		小 麦		はだか麦
		単収 309kg	単収 360kg	単収 305kg
販売金額(品代)		21,452	24,992	14,296
経営 所得 安定 対策	畑作物の直接支払(数量払)	30,437	35,460	38,888
	水田活用の直接支払	35,000	35,000	35,000
	(水田裏の場合)	15,000	15,000	15,000
	産地交付金:麦担い手加算	5,500	5,500	5,500
	産地交付金:さぬきの夢加算	2,000	2,000	—
収入 合計	(麦単作の場合)①	94,389	102,952	93,684
	(水田裏作の場合)①'	74,389	82,952	76,684
経費②		36,055	36,055	37,370
所得	(麦単作の場合)①－②	58,334	66,897	56,314
	(水田裏作の場合)①'－②	38,334	46,897	36,314

※小麦単収 309kg、はだか麦単収305kgは20～26年産(7中5)平均。農林水産省「作物統計」

※販売金額は平成27年産落札指標価格(税込)から算出。

※数量払の単価:小麦1等Bランク、はだか麦1等Aランクの場合。

※産地交付金:平成27年度見込で算出。麦担い手集積加算は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者で法人格を有する場合で算定。

※経費:全算入生産費から家族労働費、自作地地代、自己資本利子を控除。

(27年度;小麦は香川県統計 19～25年産7中5平均、はだか麦は全国統計 23～25年産平均)

①認定農業者

大規模生産者については、計画的な適期播種や基本技術の励行を推進し、計画的な作業が行えるよう機械整備の面から各種支援措置の活用を提案し、生産性の向上を図る。

また、園芸中心の認定農業者に、経営に麦作を取り入れることを提案する。

②集落営農組織

地域の冬期の不作付農地の有効活用、組織化による労働力の確保、機械の共同利用などにより、地域の農地を守り農業経営の改善を図るために小麦を中心とした作付を推進する。

③1支店1農場組織

香川県農協が進める1支店1農場組織の再編による「新たな営農組織」で、麦の作付の継続・拡大を図る。

④麦の新規作付者の掘り起し

水稻単作農業者、定年帰農者などに麦を経営に取り入れ経営改善を図ることを提案するとともに、経営所得安定対策の対象となるよう認定農業者や集落営農の立ち上げ・参加に誘導する。

5. 麦づくりを支える各種施策の概要

1)「さぬきの夢」の作付拡大に対する支援(県、JA 香川県)

前年より作付面積を維持・拡大しようとする担い手に対して、8ha を超える作付面積に応じて助成する。 (「さぬきの夢」生産拡大加速化事業)

【補助率】10ha 以上 4,500 円/10a 以内 (県 1/2、JA1/2))

8ha~10ha 3,000 円/10a 以内 (県 1/2、JA1/2))

2)麦の生産拡大や生産性向上に必要な機械整備に対する支援(県)

認定農業者や営農組織等を対象に、トラクター、コンバインなどの整備に対する支援を行う。(補助率 30%以内、上限 300 万円)

(かがわの水田有効活用条件整備事業)

3)農業機械等のリース導入に対する支援(香川県農業再生協議会)

担い手への農地の集積・集約化等に必要な農業機械等のリース導入の取組を支援する。(攻めの農業実践緊急対策事業)

4)集落営農の組織化と農業機械等の整備に対する支援(県)

集落での話し合い活動を通じ組織化に向けた合意形成や農業機械等の導入による低コスト化などの「集落営農」への取組を支援する。

(地域を支える集落営農推進強化事業事業、別紙パンフレット参照)

5)農地機構を通じての農地の貸借に対する支援(県、香川県農地機構)

(農地集積支援事業、別紙パンフレット参照)

6)農作業支援体制の整備と作業支援に必要な機械の整備に対する支援

(農作業支援体制構築支援事業、事業実施主体:JA香川県)

平成 27 年播き麦の需給動向及び
生産拡大に向けた取組方針について

香川県農業協同組合 営農部 農産販売課

課長 北岡 泰志

平成27年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について

香川県農業協同組合
営農部農産販売課

1. 平成26年産（25年播き）の販売状況

(1) さぬきの夢2009

3回の入札価格の事後調整が、販売進度に影響

(2) イチバンボシ

国内産二条大麦へのシフトから販売進度は低調、やや需要回復傾向

(表1) 平成26年産民間流通麦の販売状況（6月末日現在）

(単位：t、%)

麦 種	契約数量 ①	販売実績 ②	販売進度 ③=②/①	前年販売 実績 ④	前年同期 進度 ⑤	販売実績対比 ⑥=②-④	販売進度対比 ⑦=③-⑤
さぬきの夢2009	4,397.1	2,663.7	60.6%	2,768.6	52.1%	▲104.9	+8.5
イチバンボシ	2,364.0	691.4	29.2%	836.5	25.5%	▲145.1	+3.7
2麦種 計	6,761.1	3,355.1	49.6%	3,605.1	42.0%	▲250.0	+7.6

(注1) ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

(表2) 26年産小麦の事後調整後の価格推移（実績）

(単位：円/トン（税抜）)

播種前価格/販売期間	26/6～26/9	26/10～27/3	27/4～27/8
67,776	67,437(99.5%)	67,098(99.0%)	69,132 (102.0%)

2. 平成27年産（26年播き）の作付状況について

(表3) 27年産の作付状況

(単位：ha)

区 分	26年播（27年産） 共済引受面積 ①	25年播（26年産） 共済引受面積 ②	増減 ③=①-②
さぬきの夢2009	1,576	1,391	+185
イチバンボシ	849	870	▲21
2麦種 計	2,425	2,261	+164

※共済引受面積は、採種ほ場を除く。

(表4) 麦の播種時期と単収について（平成24年播～平成26年播の比較）

区 分	26年播（27年産）		25年播（26年産）		24年播（25年産）	
	11月末 進捗率	95% 完了時期	11月末 進捗率	95% 完了時期	11月末 進捗率	95% 完了時期
小麦	82%	1月上旬	43%	1月上旬	81%	12月下旬
単収	302 kg/10a（推定）		317 kg/10a		375 kg/10a	
はだか麦	87%	1月上旬	52%	1月上旬	89%	12月上旬
単収	271 kg/10a（推定）		269 kg/10a		379 kg/10a	

3. 平成27年産（26年播き）の需給と作柄状況

(1) さぬきの夢2009

大幅な需給ミスマッチ ▲1,801 t (希望購入数量 > 集荷数量)

(2) イチバンボシ

需給の逆ミスマッチ +488 t (希望購入数量 < 集荷数量)

(表5) 平成27年産麦の契約と購入希望数量と検査結果

(単位：ha、t)

麦 種	出荷契約時		購入希望 数量①	検査数量(推定)			購入比 ③/①	1等 比率
	面積	契約数量		面積②	集荷数量③	単収③/②		
さぬきの夢2009	1,500	4,950	6,561	1,576	4,760	302kg/10a	72.5%	80.0%
イチバンボシ	800	2,432	1,812	849	2,300	271kg/10a	126.9%	90.0%
計	2,300	7,382	8,373	2,425	7,060	—	84.3%	83.3%

※検査数量欄の面積②は、採種ほ場面積を除く。

※集荷数量③、1等比率は推定値である。

(表6) 27年産小麦の事後調整後の価格推移(予測)

(単位：円/t (税抜))

播種前価格/販売期間	27/6～27/9	27/10～28/3	28/4～28/8
64,281	65,888 (102.5%)	未定	未定

4. はだか麦「イチバンボシ」の需給と生産振興

(1) 需要の低迷要因

安定供給に欠けるとのことから安価で安定流通が図れる二条大麦への転換。

(2) 需要回復に向けた取り組みと生産振興

「かがわ農商工連携ファンド事業」を活用して需要拡大に向け、新たな視点から商品開発を行い、安定した需要と販路開拓を実需者と一体となり取り組み実施中。



「イチバンボシ」は本県が誇るブランド産品であり、麦面積の拡大には播種・収穫作業の平準化から小麦と共に2麦をバランス良く作付することが不可欠。

(表7) はだか麦の販売価格の推移

(単位：円/t (税抜))

相対基準価格	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産
香川県①	54,487	50,648	49,803	46,390	43,399
全国平均②	50,277	49,472	49,804	47,291	44,178
①÷②	108.4%	102.5%	99.9%	98.1%	98.2%

5. 平成28年産（27年播き）麦の需給状況

(1) さぬきの夢2009

依然需給ミスマッチ ▲2,060 t (希望購入数量 > 販売予定数量)

(2) イチバンボシ

需給の逆ミスマッチ +225 t (希望購入数量 < 販売予定数量)

(表8) 平成28年産麦の出荷契約から見た販売予定数量と購入希望数量 (単位: ha、t)

麦 種	販売予定		購入希望数量 ②	ミスマッチ数量 ③=①-②	希望比率 ④=①/②
	出荷契約面積	数量①			
さぬきの夢2009	1,700	5,250	7,310	▲2,060	71.8%
イチバンボシ	850	2,590	2,365	+225	109.5%
計	2,550	7,840	9,675	▲1,835	81.0%

※出荷契約面積は、生産者から提出された播種前契約面積である。

6. 平成28年産（27年播き）麦の目標面積

(1) さぬきの夢2009

単年度での需給ミスマッチの解消は困難であるが、面積拡大と単収向上の両面からミスマッチの縮小を図る。

(2) イチバンボシ

需給の均衡状態と生産振興面から現状程度の850haとする。

(表9) 28年産（27年播き）小麦の生産量の目標

(単位: t、ha)

区分	購入希望 数量①	最低確保水準 (※)		小麦単収 UP		増産目標水準		
		面積	生産量 ②	生産量③ 360kg/10a	購入乖離 ④=③-①	目標面積	生産量⑤ 360kg/10a	購入乖離 ⑥=⑤-①
小麦	7,310	1,700	5,250	6,120	▲1,190	1,750	6,300	▲1,010
はだ か麦	2,365	850	2,590	—	—	—	—	—

※28年産目標における小麦の単収は309kg/10aで算出。また、目標面積は採種ほ場面積を含む。

(表10) 28年産(27年播き)小麦の地域別生産目標

(単位: ha)

地 域	作付面積 (ha)		
	27年産①	28年産目標②	拡大③=②-①
大 川	203	221	18
中 央	612	667	55
綾 坂	242	264	22
仲多度	376	409	33
三豊・豊南	173	189	16
県 計	1,606	1,750	144

※農業共済引受面積(採種ほ場面積を含む)とする。

7. 平成28年産(27年播き)の生産拡大に向けた各種支援対策

(1) 小麦の生産拡大のためのソフト支援事業

事業名	窓口	内 容	助成金額等
「さぬきの夢」生産拡大加速化事業 (県、JA)	JA	県育成品種「さぬきの夢 2009」の作付面積が前年実績と比較して、面積維持もしくは拡大しようとする認定農業者・集落営農組織・認定新規就農者で、平成27年播き(28年産)小麦の作付面積に応じて、10ha以上を超える部分をA区分、8ha～10ha未満分をB区分として助成する。	補助率: A区分 4,500円/10a以内 B区分 3,000円/10a以内 (県1/2、JA1/2)
経営所得安定対策における産地交付金 (県農業再生協議会) (平成27年度)	地域農業再生協議会	・担い手(認定農業者、集落営農組織、認定新規就農者)が集積(自作地を含む)した麦作付面積に対して交付。 ・認定農業者、集落営農組織等が法人格を有する場合に加算して交付。 ・「さぬきの夢 2009」を作付した場合に加算して交付。 ・新規に麦を生産拡大した面積に対して交付。	交付額: 3,500/10a 交付加算額: 2,000/10a 交付加算額: 2,000/10a 交付額: 7,000円/10a

(2) 作業効率性や収量性向上のためのハード支援事業

事業名	事業主体	内 容	助成金額等
攻めの農業実践 緊急対策事業 (1) 効率的機械 利用体系構築事 業	農業者 農事組合法人 集落営農組織等	(1) 担い手への農地の集積・集約 化に必要な機械・機器のリース導 入。 (2) 担い手への農地の集積・集約 化等により作付け体系の転換等 を行う非担い手が所有する機械・機 器の廃棄及び当該機械等を担い手 が再利用するための補改修。	補助率： 1/2 以内
かがわの水田有 効活用条件整備 事業（県単）	認定農業者 農事組合法人 集落営農組織等	麦の生産拡大や生産性（収量・品 質）の向上に必要な営農用機械な どの整備	補助率：30%以 内、上限 300 万円

以上

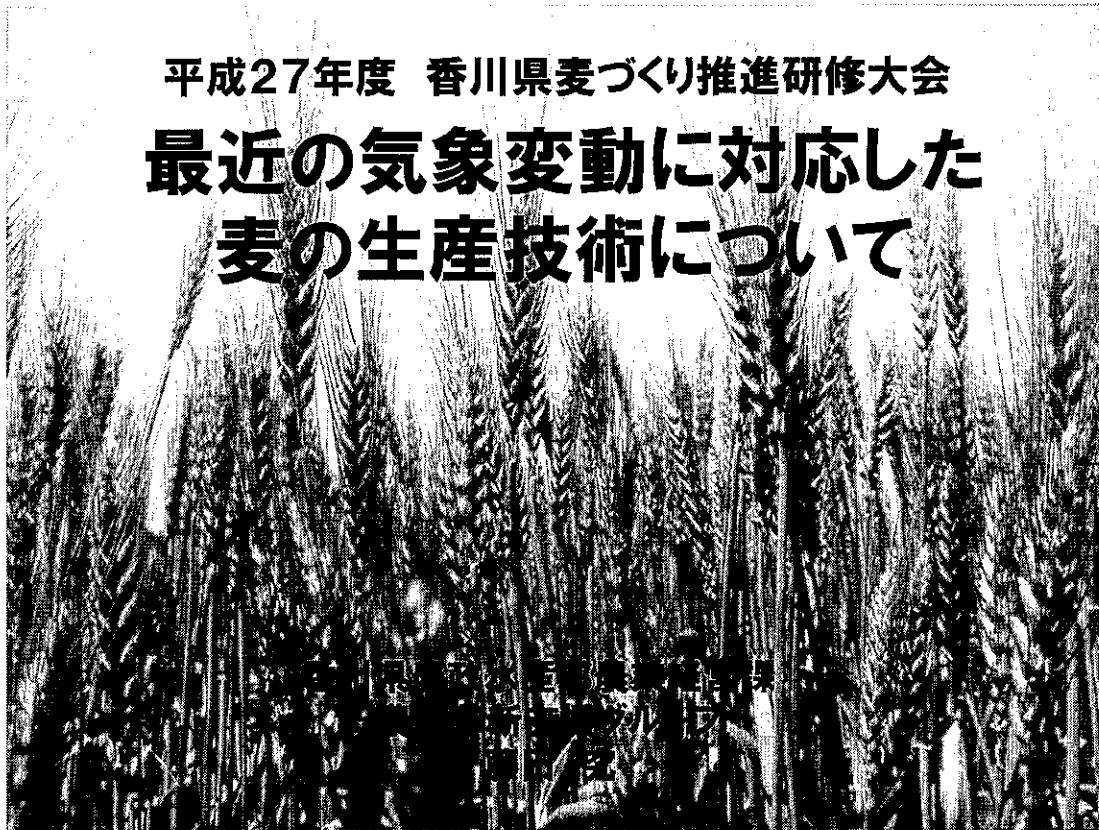
最近の気象変動に対応した麦の生産技術について

香川県 農政水産部 農業経営課

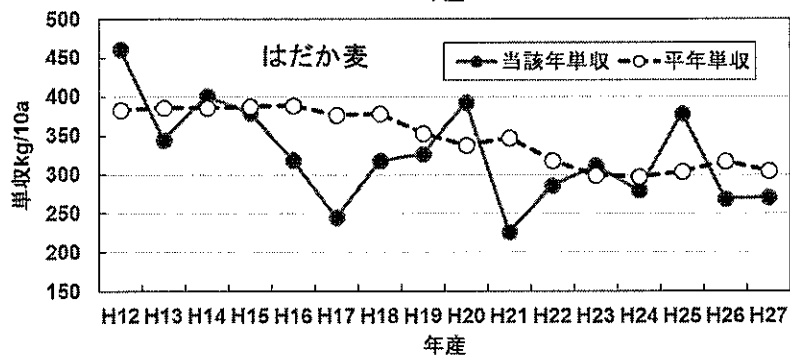
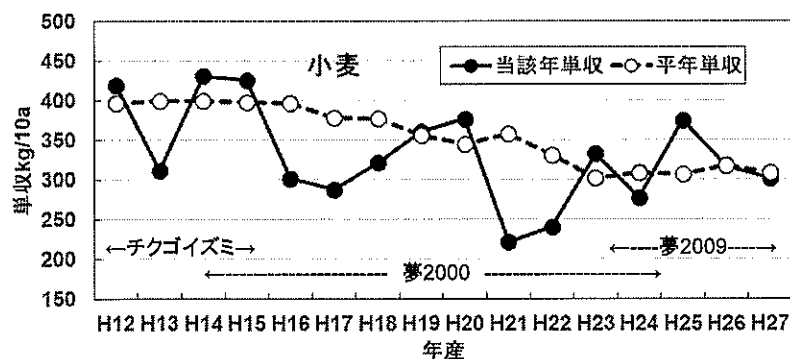
課長補佐 藤田 究

平成27年度 香川県麦づくり推進研修大会

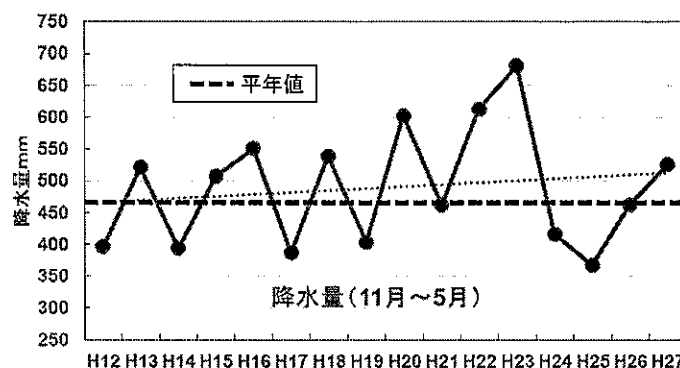
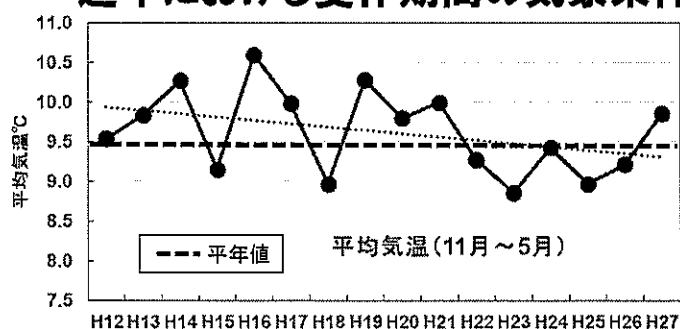
最近の気象変動に対応した 麦の生産技術について



近年における麦類の単収の推移



近年における麦作期間の気象条件



麦類の収量に及ぼす気象条件の影響

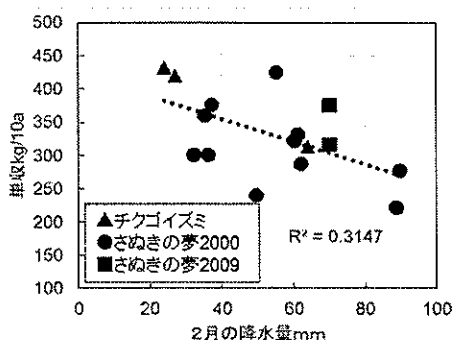
- ①2月の雨が少ないと多収。
- ②2～3月の日照時間が多いと多収。



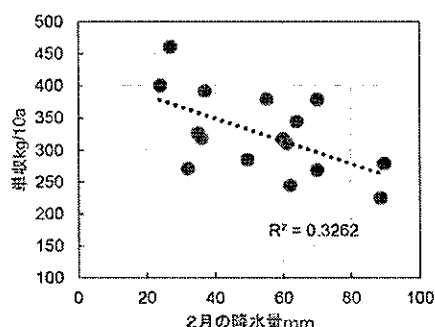
2月に土が乾いて根の生長が良く、2～3月が晴れて光合成量が多いと多収になると推察される。



生育中期の排水対策が重要！



2月の降水量と小麦単収との関係



2月の降水量とはだか麦単収との関係

収量低下要因

- ①湿害
- ②遅播き
- ③土壌の劣化
- ④雑草害

対 策

- ①排水対策
- ②適期播種
- ③土づくり
- ④雑草防除

排水対策

①播種前対策

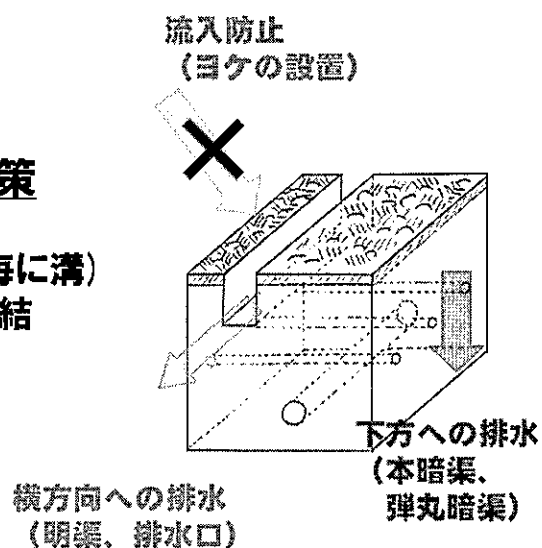
- ・本暗渠
- ・弾丸暗渠
- ・明渠やヨケの設置

②播種時、播種直後対策

- ・ほ場周囲にヨケを設置
- ・畦立て栽培法（1行程毎に溝）
- ・排水溝を落水口まで連結

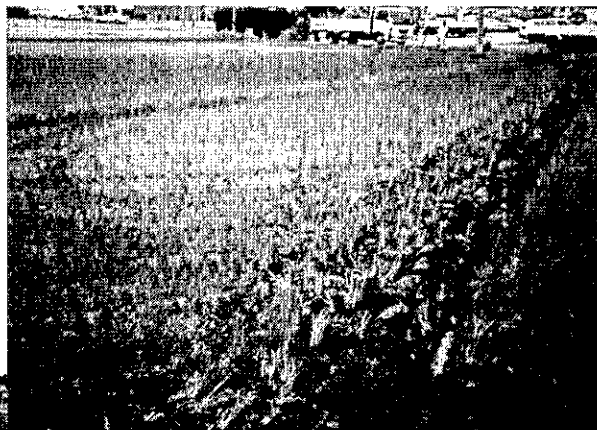
③生育中の対策

- ・土入れ
- ・排水溝の整備



排水対策の事例紹介①

播種前の排水対策
あらかじめ明渠を設置→

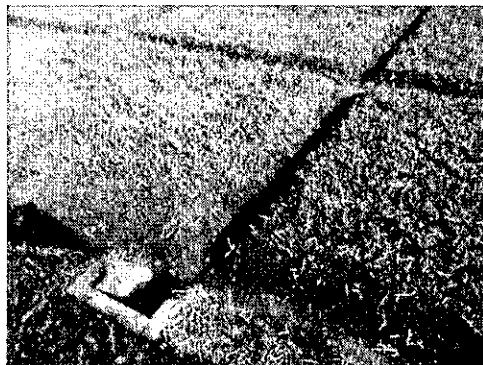


←水田からの水の流入をヨケで防止(播種前対策)

排水対策の事例紹介②

播種時の排水対策
1行程毎に溝をつける
畦立て栽培法 →

播種直後の排水対策
畦の溝と排水口を確実に連結する。↓



↑ 枕地部分の溝さらえ

排水対策の事例紹介③

生育中の排水対策 →
生育期の土入れ作業

- ①排水性向上
- ②雑草防除
- ③追肥効果の向上（追肥後）
が期待できる。



←畦立て栽培法では排水溝
に水がたまり、湿害を受けに
くい。

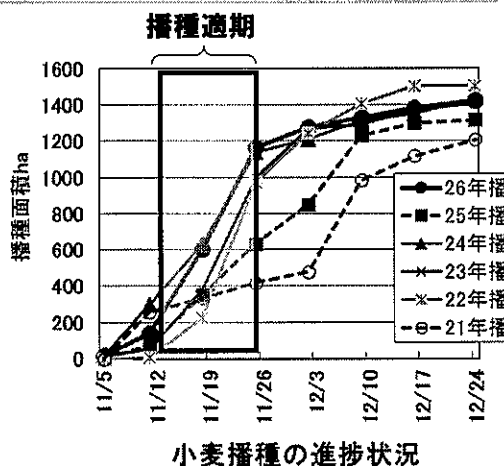
適期播種

近年は播種適期の降雨により、播種が遅くなる傾向がある。

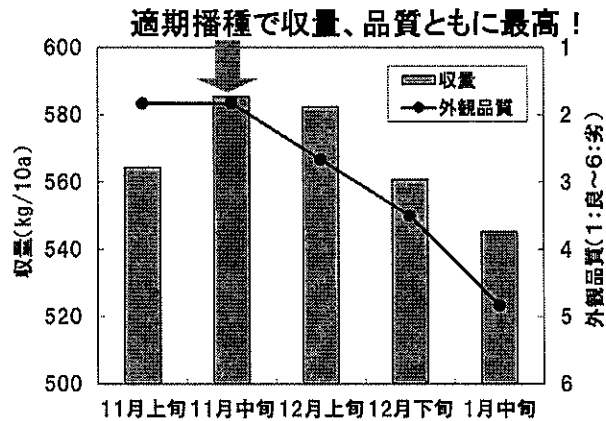


播種早限になり、土壤水分が適正になったら、すぐに播種作業を開始して下さい。

小麦、はだか麦ともに
播種早限→11月10日
播種適期→11月15～25日



適期播種で最多収となり、播種が遅れるほど収量、品質ともに低下しやすくなる。

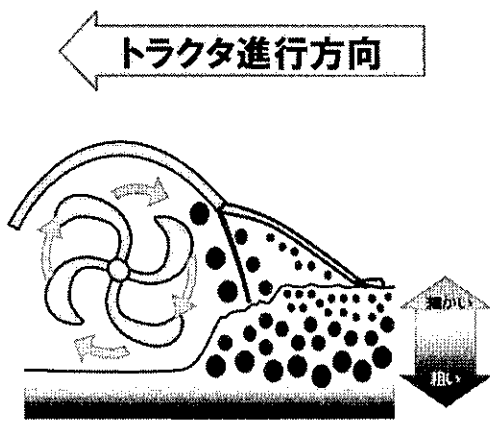


「さぬきの夢2009」の播種期と収量及び外観品質
(平成22~24年播の3ヵ年平均、農業試験場)

小麦は12月中旬以降、はだか麦は12月末以降になると収量が下がるので注意が必要！

逆転耕畦立てドリル播栽培

→ 土壤水分がやや高くても播種できる技術



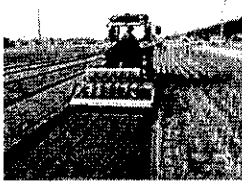
アップカットロータリによる耕耘



↑ 1回耕でも碎土や稲株の鋤込み
精度が良いので、すぐ播種できる。

麦類逆転耕うね立てドリル播作業マニュアル

麦類逆転耕うね立てドリル播
作業マニュアル



遠近四方に及んでデフレは進行し、物上取の如きことが多く、現金が溢れるため、金の需要が急増して多額となる利差が出現する。しかし、作業後の調整によつては、その影響を十分に免れることができません。キネマ・アルゼンチンにして多額のなり滞りがあるに立て前向きに取り組んでください。

平成26年10月
香川県農業振興課

逆転耕うね立てドリル播種とは？

送経機と同様に立上りしなげに
ドリルを回転させる形ではまず
軸に接した土はスグリー
(レキ) 部分で逃げられ、作土
の表面は縮み、下層が粗くなる
ので、排水性が良く、肥の生育に
適した条件となります。

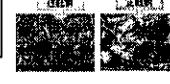
再び降った後、軽くまでに時間
がかかると、また土壌水分が高いと
作土が悪くなるような土壌条件に
通じています。

【附录】

④事前に確認しなくても、声帯の
 ⑤の筋が良くて、筋力が強いと
 なる。
 ⑥の筋力が弱くても、筋力
 ⑦の筋となるので、筋力が良くて
 ⑧の筋が良くなる。
 ⑨の筋力が良くて、筋力が良
 ⑩の筋となるので、筋力が良くて
 ⑪の筋が良くなる。
 ⑫の筋力が良くて、筋力が良
 ⑬の筋となるので、筋力が良くて
 ⑭の筋が良くなる。
 ⑮の筋力が良くて、筋力が良
 ⑯の筋となるので、筋力が良くて
 ⑰の筋が良くなる。
 ⑱の筋力が良くて、筋力が良
 ⑲の筋となるので、筋力が良くて
 ⑳の筋が良くなる。
 ㉑の筋力が良くて、筋力が良
 ㉒の筋となるので、筋力が良くて
 ㉓の筋が良くなる。
 ㉔の筋力が良くて、筋力が良
 ㉕の筋となるので、筋力が良くて
 ㉖の筋が良くなる。
 ㉗の筋力が良くて、筋力が良
 ㉘の筋となるので、筋力が良くて
 ㉙の筋が良くなる。
 ㉚の筋力が良くて、筋力が良
 ㉛の筋となるので、筋力が良くて
 ㉜の筋が良くなる。
 ㉝の筋力が良くて、筋力が良
 ㉞の筋となるので、筋力が良くて
 ㉟の筋が良くなる。
 ㊱の筋力が良くて、筋力が良
 ㊲の筋となるので、筋力が良くて
 ㊳の筋が良くなる。
 ㊴の筋力が良くて、筋力が良
 ㊵の筋となるので、筋力が良くて
 ㊶の筋が良くなる。
 ㊷の筋力が良くて、筋力が良
 ㊸の筋となるので、筋力が良くて
 ㊹の筋が良くなる。
 ㊺の筋力が良くて、筋力が良
 ㊻の筋となるので、筋力が良くて
 ㊼の筋が良くなる。
 ㊽の筋力が良くて、筋力が良
 ㊾の筋となるので、筋力が良くて
 ㊿の筋が良くなる。

【例題 4】

の作業機がのびにゃんがはずれ、と、むけが狂うまででなかったり、ト
ラクタの燃費が悪くはなりすぎる。
のびにゃんがききやすい（正確には力加減度）。
金銭的の幅が広い（いまは半ジョーナルス等でも前に押す場合がある。
一事務用車やスタブルなルガ等の利用で経済することができ、



逆転耕うね立てドリル掘機のセッティングの手順

アップカントリーの取付け

↓ 電機設備の設置
してから開始する。

100

※注意：利付前からは元金までの返済

絞の死状の

.....

總代理 廣發興

[illegible]

土づくり

近年、麦の生育不良ほ地が増加

＜原因＞

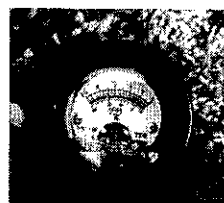
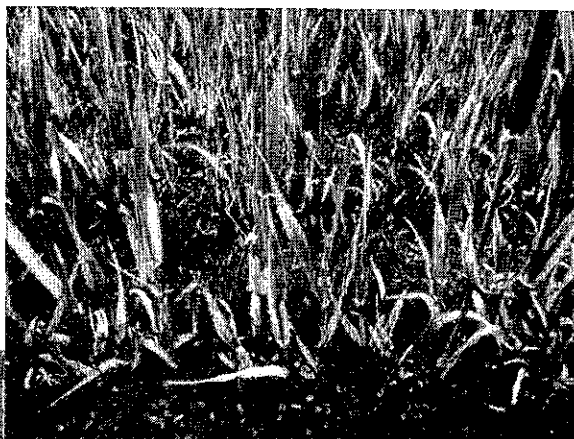
- ①pH低下による酸性障害
②微量元素欠乏(過剰)による生理障害

<対策>

- ①苦土石灰の施用
②ケイカル等の土づくり肥料の施用

pH低下による酸性障害

pH5以下で生育障害が顕著
特にはだか麦で発生しやすい。
→アルカリ資材で酸度矯正する。
pH6～6.5が望ましい。



土壌挿入型酸度計(pH計)
はpH4.5を示している。

微量元素欠乏による 生理障害



↑株全体の生育が不良で、特
に新葉部分が黄化する。

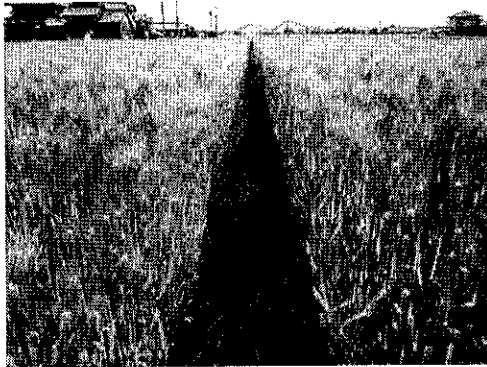


←ほ場全体に生育ムラがみら
れ、モザイク状に黄化が見られ
る。

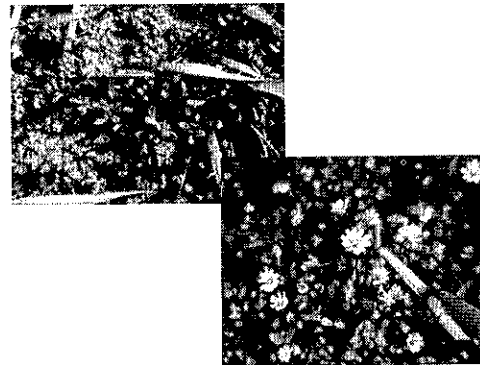
雑草防除

①除草剤抵抗性スズメノテツポウ

- ・トレファノサイド、ハーモニーが効かない。
- ・初期除草剤としてはボクサーが有効であるが、ノミノフスマが残草しやすい。→中期除草剤との体系処理が必要
- ・ハーモニーに替わるものがない。



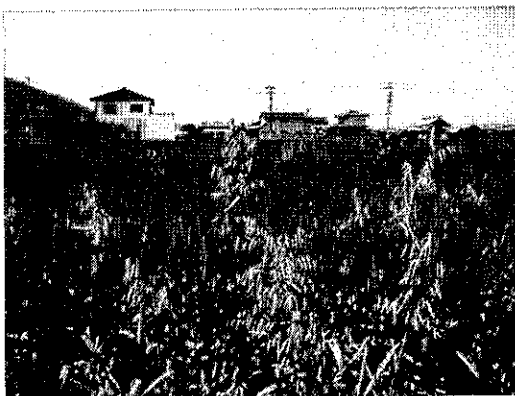
トレファノサイド抵抗性スズメノテツポウ



ノミノフスマ

②カラスムギ

- ・激発するほ場が増えつつある。
- ・対策としては、湛水処理しかないのが現状。
- ・湛水できないほ地での対策が課題。



カラスムギ



カラスムギの激発ほ場

③オオスズメノカタビラ、ネズミムギ

- ・発生ほ場が目立つようになった。
- ・播種前の非選択性茎葉処理剤＋播種後の土壌処理剤の体系処理が有効。



オオスズメノカタビラ



ネズミムギ(イタリアンライグラス)

まとめ

①排水対策を万全に！

播種前～播種直後、生育中の各時期に応じた排水対策を。

②適期に播種しましょう！

早めの準備で播種適期11月15～25日を播種ピークに。

③土づくりを行いましょう！

生育障害が現れる前から土づくり肥料(苦土石灰等)を施用。

④雑草防除を徹底しましょう！

雑草防除には効果の高い除草剤と適切な除草体系を。

基調講演①

全国へ広がる“さぬきの夢”小麦粉
～その新しい“食と健康”の世界～

香川県製粉製麺協同組合

理事 吉原 良一

経 歴

平成 27 年 7 月 24 日

氏 名：吉原良一（よしはら りょういち）

生年月日：昭和 32 年 2 月 19 日（58 歳）

本籍：香川県坂出市青葉町

【現役職】

- ・全国製粉協議会 副会長（平成 27 年 6 月就任）
- ・香川県製粉製麺協同組合 理事
- ・香川県産業技術センター 食品研究会 副会長
- ・香川県産業技術センター 研究テーマ外部評価委員
- ・かがわ機能性食品等開発研究会 副会長
- ・坂出間税会 会長

職 歴

昭和 56 年 4 月 （株）東芝本社 入社（コンピュータ事業部 応用ソフトウェア部）

昭和 61 年 7 月 （株）東芝 退社

昭和 61 年 8 月 吉原食糧（株） 入社

平成 21 年 6 月 代表取締役 社長に就任

受賞歴 （吉原食糧株式会社）

平成 20 年 11 月 坂出税務署長表彰

平成 20 年 11 月 食品産業技術功労賞（食品産業新聞社）

技術部門「ハイブリッド小麦粉の開発」

平成 23 年 11 月 食品産業技術功労賞（食品産業新聞社） 商品部門「ぎゅっとポリフェ」

平成 24 年 3 月 四国産業技術賞（四国産業技術振興センター）

「ぎゅっとポリフェ」 ポリフェノール含量が高い健康志向の小麦粉

【著作、その他】

- ① 平成 16 年 7 月 NHK(TV) 番組「プロジェクトX ～さぬきうどん 至高のうまさとは～」

香川県産小麦「さぬきの夢 2000」の開発の取組みが紹介された。

書籍：プロジェクトX（NHK 出版）に掲載。

- ② 著作・出版：「だから さぬきうどんは旨い ～よくわかる小麦粉の話 うどんの話～」

（株）旭屋出版（平成 21 年 6 月 28 日初版）

（平成 24 年 11 月 27 日増刷）

- ③ 共著・出版：「さぬきの小麦に出会って生まれた～とびきりのフランス菓子」

（株）旭屋出版（平成 24 年 3 月 2 日初版）

全国へ広がる“さぬきの夢”小麦粉
～ 新しい“食と健康”の世界 ～

1. なぜ さぬきうどんはこれほど全国で人気を得たのか

- ① ASW（オーストラリア産小麦）と国内産小麦
～なぜ ASW は日本のうどん原料を席捲したのか～

- ② さぬきうどんと香川県産小麦の歴史

- ③ 平成 15 年「さぬきうどんブーム」の根底にあるもの
・その後の「日本の麺」市場の転換

・何が“ブーム”を引き起こし、日本の麺市場を変えたのか

・さぬきの夢 2000 登場の意味

2. さぬきの夢 2000 誕生

- ① 誕生前夜

- ② さぬきの夢 2000 の飛翔

- ③ さぬきの夢 2000 から 2009 へ

3. 国内産小麦市場の大きな変化（直近 10 年間）

～ 各地域の国内産小麦開発の活発化と、ご当地うどんの取り組み ～

- ① 各地で、新しいうどん用の小麦品種が続々登場
- ② 次々に名乗りを上げるご当地うどん

4. 広がる「さぬきの夢」小麦の可能性

- ① さぬきうどんの原材料としての「優れた小麦粉特性」と
「讃岐の食文化への新たな役割」

吉原食糧の小麦粉製品(例)

- ・「さぬきの夢」
- ・「讃岐プレミアム」：さぬきの夢と ASW とのハイブリッド小麦粉
(注：ASW：オーストラリア産小麦)

- ② うどん以外の用途の拡大（例：吉原食糧開発 小麦粉製品）

- ・菓子用：バームクーヘン、生ケーキ、サブレ等 ⇒ 「さぬきの夢ロワール」
フランス菓子のレシピ本を全国で販売（旭屋出版：平成 24 年発刊）
「さぬきの小麦粉と出会って生まれた ～とびきりのフランス菓子～」
- ・パンへの利用（新食感）⇒ 「香川の大地」
- ・中華めんへの利用（新食感）⇒ 「天龍」
- ・パスタ用 ⇒ 「生粋モダン」

- ③ 健康機能性（小麦ポリフェノールに着目した新タイプの小麦粉：吉原食糧開発）

- ・「ぎゅっとポリフェ」
一般的な小麦粉の約 3 倍のポリフェノールを含有。
- ・甘い小麦粉「スウィートポリフェ」
菓子作りで砂糖を減らせる甘味を持つ小麦粉。
加えて、一般小麦粉の約 9 倍のポリフェノールを含有。

- ④ 麺・新感覚時代の到来と、さぬきの夢の可能性

- ・広がる「食感・食味」の嗜好の幅
⇒ 麺質・新世紀へ
- ・まだまだ伸びる麺市場
⇒ 10～40 歳代の麺消費額が伸びている

5. これからの「さぬきの夢」への期待、そして必要なこと

- ① 香川県産小麦は1200年以上に及ぶ作付と食文化の歴史を持つ。

又、現在日本国内でうどん用小麦として最高の価格を認められていることに、小麦生産者も実需者（製粉企業）も、「感謝の念」と「自負を持つ」必要があるのではないだろうか。

⇒「自負を持つ」ということは、価値を持ち続けるために「不断の努力」をするということ。

- ② 小麦生産者と実需者（製粉企業）は、更に結びつきと信頼関係を強くし、市場環境が良い時も厳しい時も、一体となって即応する「連携力 = 0-カパー」が不可欠である。

⇒ フラット化する世界の穀物市場の潮流の中で、今後の輸入及び国内産小麦市場の競争が、相当厳しくなることに對し、万全の対応をする。

- ③ 「現状維持」は「衰退」を意味する、という意識が必要である。

⇒ 生産者：「小麦の品質維持(適期播種・刈取、適切な施肥)」、「小麦の生産拡大」への努力

実需者：「小麦粉・2次加工品に有形（食感特性等）・無形（機能性、文化的価値等）の新しい価値を開発し、市場に継続的に提示し供給する」

- ④ “モノ作り” には、「たゆまぬ改善努力」との持続が不可欠。“麦づくり” も“粉づくり” も同じ。

- ⑤ 讃岐産小麦「さぬきの夢」への期待

基調講演②

国内産麦の需要と生産について

農林水産省生産局農産部貿易業務課消費流通第2班

需給調整第3係長 前田 久紀

講師プロフィール

1. 氏名 前田 久紀（まえだ ひさのり）
2. 現役職 生産局農産部貿易業務課（消費流通第2班）需給調整第3係長
3. 年齢及び出身地 44歳（昭和46年生まれ） 秋田県出身
4. 職歴

平成元年4月	農林水産省青森食糧事務所入所
平成15年4月	食糧庁総務部企画課
平成16年10月	総合食料局食糧部食糧貿易課（麦政策見直し検討チーム）
平成19年4月	大臣官房国際部経済連携チーム（スイス・欧州チーム）
平成22年4月	外務省出向（在米国ナッシュビル日本国総領事館にて 経済・日本企業支援担当領事）
平成25年5月	生産局農産部貿易業務課（契約第2班（麦）） （外国産麦の契約、穀物相場分析、産地情報収集等を担当）
平成27年4月	生産局農産部貿易業務課（消費流通第2班） （国内産麦の消費拡大事業等を担当）

国内産麦の需要と生産について

平成27年7月
農林水産省生産局
農産部貿易業務課

食料・農業・農村基本計画における麦類の位置付け

- 平成27年3月末に平成37年度を目標とする「新たな食料・農業・農村基本計画」を閣議決定。
- 小麦は95万トン、大麦・はだか麦は22万トンの生産努力目標を設定。

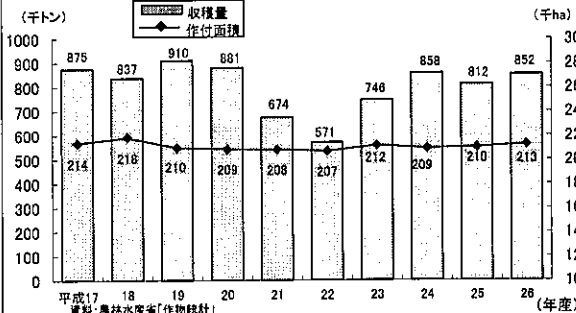
○ 麦類の生産努力目標（新たな食料・農業・農村基本計画（平成27年3月31日閣議決定））

品目	食料消費の見通し				生産努力目標 (万トン)		克服すべき課題
	1人・1年当たり 消費量 (kg/人・年)		国内消費仕向量 (万トン)				
	平成 25 年度	平成 37 年度	平成 25 年度	平成 37 年度	平成 25 年度	平成 37 年度	
小麦	33	32	699	611	81	95	○ 国内産小麦の需要拡大に向けた産地形成やブランド化 ○ 実需者ニーズに対応した生産・流通体制の確立 ○ 新品種・新技術の開発・導入、輪作体系の最適化、排水対策等による収量・品質の高位安定化 ○ 農地の集積・集約化、経営規模の拡大に対応した省力化に資する技術の開発・導入等による生産コストの低減
大麦・ はだ か麦	0.3	0.2	208	213	18	22	○ 外国産大麦が多く用いられている焼酎用等の国内産麦の需要拡大 ○ 実需者ニーズに対応した生産・流通体制の確立 ○ 新品種・新技術の開発・導入、輪作体系の最適化、排水対策等による収量・品質の高位安定化 ○ 農地の集積・集約化、経営規模の拡大に対応した省力化に資する技術の開発・導入等による生産コストの低減

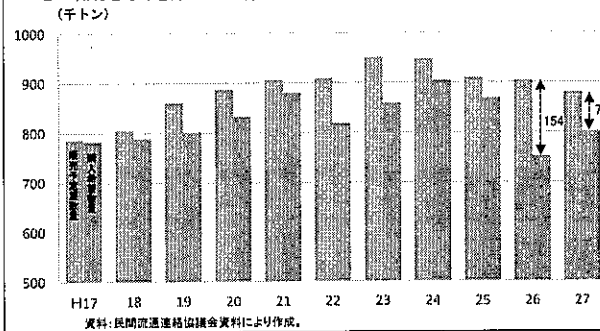
国内産小麦の現状

- 平成26年産の全国の国内産小麦の作付面積は21.3万ha、収穫量は85万2千トン。
- 平成26年産で約15万トンに拡大した販売予定数量と購入希望数量の差は、平成27年産は約8万トンと一定程度縮小。
- 平成27年産国内産小麦の全銘柄落札加重平均価格は、49,770円/トン、外国産麦に比べて低い水準。

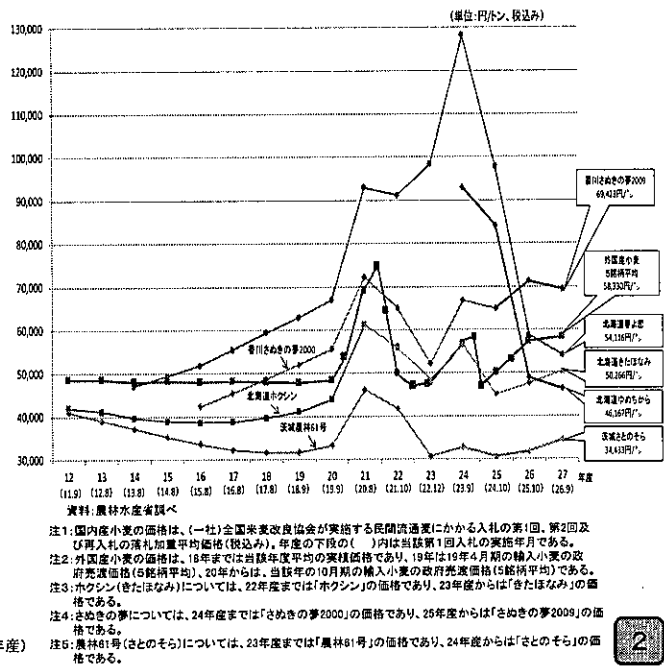
○ 国内産小麦の収穫量と作付面積の推移



○ 販売予定数量と購入希望数量の推移



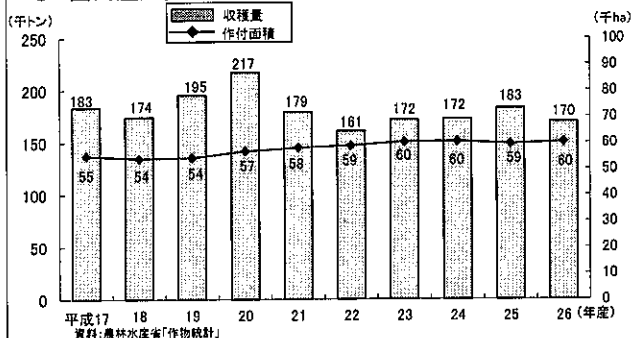
○ 国内産小麦の主な産地銘柄の落札価格の推移



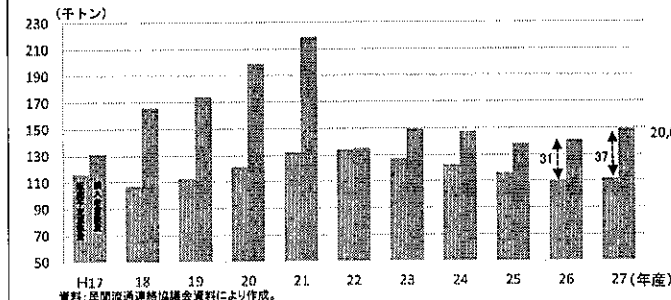
国内産大麦・はだか麦の現状

- 平成26年産の全国の大麦・はだか麦の作付面積は6万ha、収穫量は17万トン。
- 国内産大麦・はだか麦は、販売予定数量が購入希望数量を下回っておりその差は、平成27年産で約3万7千トン。
- 平成27年産の全銘柄落札加重平均価格は、二条大麦で45,740円/トン、六条大麦で47,795円/トン、はだか麦で47,712円/トン、外国産麦に比べ低い水準。

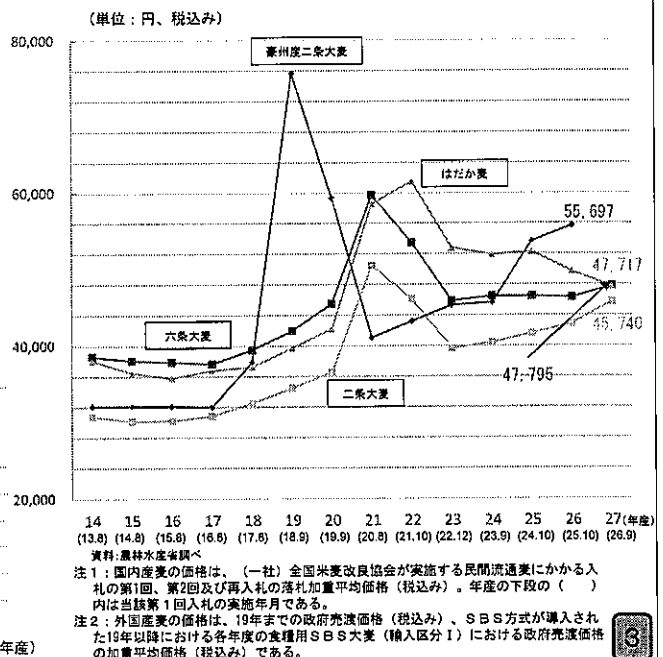
○ 国内産大麦・はだか麦の収穫量と作付面積の推移



○ 販売予定数量と購入希望数量の推移



○ 国内産大麦・はだか麦の落札価格の推移



需要に即した生産に向けて

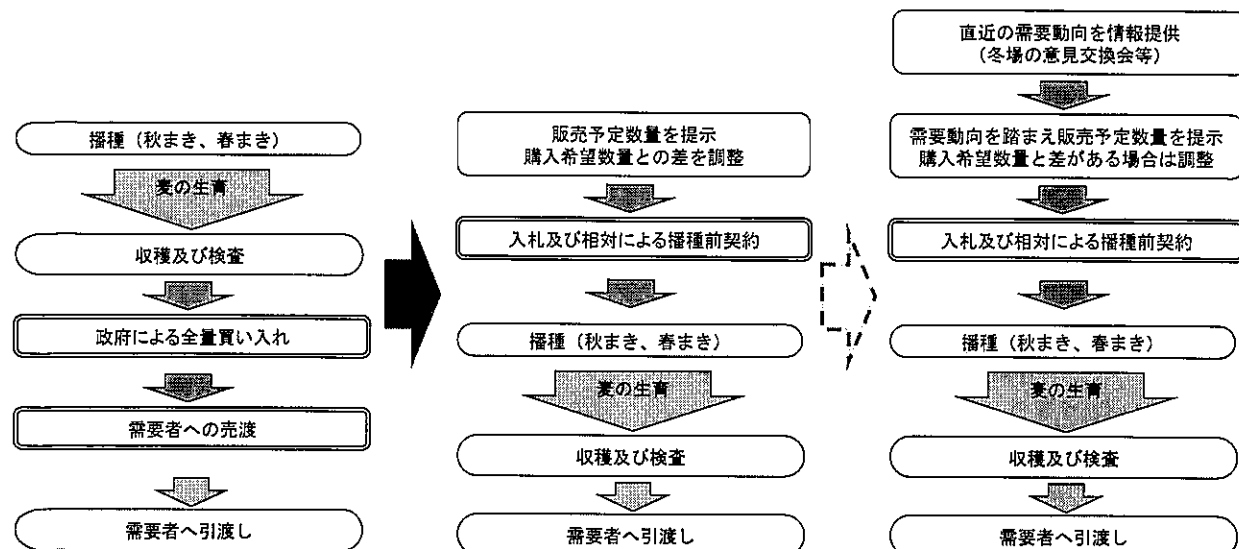
- 「食料・農業・農村基本計画」の生産努力目標を達成するためには、克服すべき課題のうち、特に実需者ニーズに対応した生産・流通体制(マーケットイン)を確立していくことが重要。

プロダクトアウトからマーケットインへの転換

○ プロダクトアウト(平成12年度前)

○ 国内産麦の民間流通(現行)

○ マーケットインの徹底



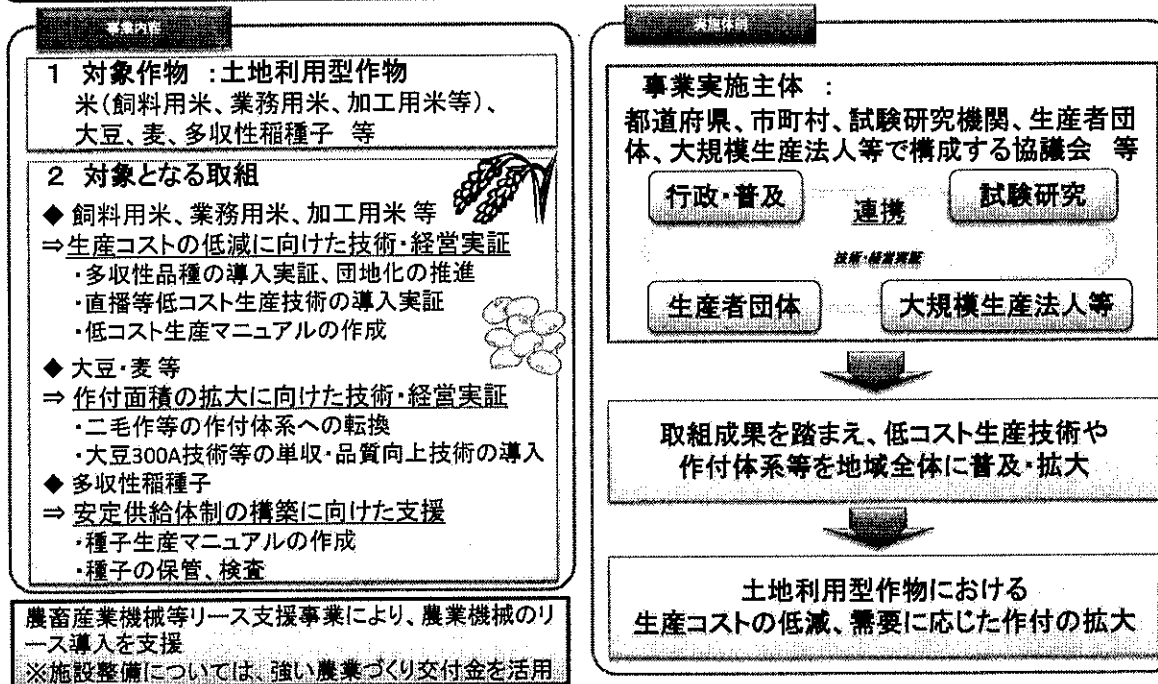
4

(参考)平成27年度予算概算決定
(麦関係事業)

産地活性化総合対策事業のうち産地収益力増強支援事業
(大豆・麦・飼料用米等生産拡大支援事業のうち作付体系転換支援事業)

【平成27年度予算概算決定額：2,343百万円の内数】

水田のフル活用と需要に応じた土地利用型作物の生産拡大に向け、飼料用米等の多収性品種や低コスト生産技術の導入実証、農地の高度利用に資する作付体系への転換等の取組を支援します。



5

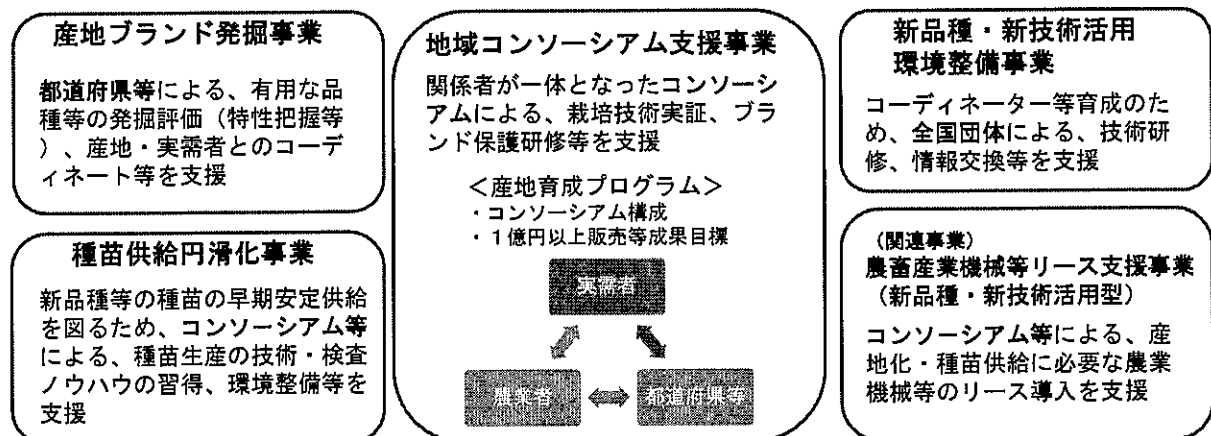
産地活性化総合対策事業のうち

【平成27年度予算概算決定額 4 3 7 百万円】

新品種・新技術活用型産地育成支援事業

「強み」のある産地を育成するため、新品種・新技術等を活用し、実需者、農業者、地方公共団体等が一体となって産地形成を行う取組を支援します。

※「強み」とは、マーケットインの発想の下、実需・消費ニーズに適合し、適正に保護管理されているブランド



※ このほか、強い農業づくり交付金において、「強み優先枠」を設定し、積極的に支援

政策目標：今後3年間(26～28年度)に「強み」のある農畜産物を100以上創出

6

強い農業づくり交付金

平成27年度予算概算決定額: 23, 085(23, 385)百万円
(平成26年度補正予算: 17, 600百万円)

国産農畜産物の安定供給・輸出拡大のため、生産から流通までの強い農業づくりに必要な共同利用施設の整備等を支援。

補助対象:

① 共同利用施設等整備

乾燥調製施設、集出荷貯蔵施設、農産物処理加工施設、生産技術高度化施設、
家畜市場、畜産物処理加工施設、小規模土地基盤整備、飼料作物作付条件整備 等

② 卸売市場施設整備

売場施設、貯蔵・保管施設、駐車施設、搬送施設、衛生施設、情報処理施設 等

交付率:

都道府県へは定額（事業実施主体へは事業費の1/2以内等）

事業実施主体:

都道府県、市町村、農業者団体等

交付先:

国 ⇒ 都道府県

支援メニュー

1 産地収益力の強化

各品目の生産性向上等の取組に必要な共同利用施設の整備を支援

2 産地合理化の促進

産地の集出荷、処理加工体制の合理化に必要な共同利用施設の再編等を支援

3 気象災害等リスクの軽減

気象災害等産地を弱体化させるリスクの軽減に必要な共同利用施設(被害防止施設等)の整備を支援

4 食品流通の合理化

安全で効率的な市場流通システムの確立に必要な卸売市場施設の整備を支援

優先枠の設定

① 農畜産物輸出に向けた体制整備【20億円】

輸出先国の求める衛生条件等を満たすために必要な施設の整備を支援

② 「強み」のある産地形成に向けた体制整備【20億円】

新品種・新技術等の導入により、需要に対応した産地の形成に必要な施設の整備を支援

③ 集出荷・加工の効率化に向けた再編合理化【20億円】

高収益な産地体制への転換を図るために、集出荷・処理加工施設等の再編合理化を支援

事業の流れ



大 会 宣 言

私たちは、麦づくりを郷土香川の誇り
とし、面積の拡大、単収や品質の向上に
よる生産拡大を進め、経営の発展を図る
とともに、麦づくりを通じて地域の農業
振興にも貢献していきます。

平成27年8月3日

平成27年度香川県麦づくり推進研修大会

平成26年播き香川県麦作拡大コンクール受賞者一覧

個人の部

最優秀賞 黒田 直文 様

優秀賞 (有) グリーンフィールド 様

優秀賞 吉森 翼 様

特別賞 日笠 正統 様

特別賞 山田 憲一 様

生産団体の部

最優秀賞 農事組合法人 宮薮 様

優秀賞 農事組合法人 くるしま 様

優秀賞 農事組合法人 アグリ三条会 様

『 個人の部 』

最優秀賞

個人名	黒田 直文		
所在地	観音寺市		
平成26年播き作付面積	小 麦:	1.10ha	
	はだか麦:	4.75ha	
平成26年播き麦の生産実績	作付拡大面積(ha)	平均収量(kg/10a)	1等比率(%)
	5.23 ha	小麦 477 kg はだか麦 288 kg	100%

『 個人の部 』

優秀賞

個人名	(有)グリーンフィールド		
所在地	綾川町		
平成26年播き作付け面積	小 麦:	17.89 ha	
	はだか麦:	ha	
平成26年播き麦の生産実績	作付拡大面積(ha)	平均収量(kg/10a)	1等比率(%)
	5.24 ha	小麦 367 kg	100%

『 個人の部 』

優秀賞

個人名	吉森 翼		
所在地	綾川町		
平成26年播き作付面積	小 麦:	1.72 ha	
	はだか麦:	- ha	
平成26年播き麦の生産実績	作付拡大面積(ha)	平均収量(kg/10a)	1等比率(%)
	1.72 ha	はだか麦 309 kg	100%

『 個人の部 』

特別賞

個人名	日笠 正統		
所在地	さぬき市		
平成26年播き作付面積	小 麦:	15.45 ha	
	はだか麦:	- ha	
平成26年播き麦の生産実績	作付拡大面積(ha)	平均収量(kg/10a)	1等比率(%)
	5.77 ha	小麦 293 kg	50%

『 個人の部 』

特別賞

個人名	山田 憲一		
所在地	高松市		
平成26年播き作付面積	小 麦:	3.01 ha	
	はだか麦:	1.71 ha	
平成26年播き麦の生産実績	作付拡大面積(ha)	平均収量(kg/10a)	1等比率(%)
	2.33 ha	小麦 343 kg はだか麦 329 kg	0%

『生産集団の部』

最優秀賞

組織名	農事組合法人 宮薮		
所在地	綾川町		
平成26年播き作付面積	小 麦:	5.8 ha	
	はだか麦:	— ha	
平成26年播き麦の生産実績	作付拡大面積(ha)	平均収量(kg/10a)	1等比率(%)
	5.8 ha	小麦 372 kg	100%

『生産集団の部』

優秀賞

組織名	農事組合法人 くるしま		
所在地	丸亀市		
平成26年播き作付面積	小 麦:	3.52 ha	
	はだか麦:	2.53 ha	
平成26年播き麦の生産実績	作付拡大面積(ha)	平均収量(kg/10a)	1等比率(%)
	6.05 ha	小麦 416 kg はだか麦 386 kg	50%

『生産集団の部』

優秀賞

組織名	農事組合法人 アグリ三条		
所在地	丸亀市		
平成26年播き作付面積	小 麦:	— ha	
	はだか麦:	7.01 ha	
平成26年播き麦の生産実績	作付拡大面積(ha)	平均収量(kg/10a)	1等比率(%)
	7.01 ha	はだか麦 245 kg	100%

平成26年播き香川県麦作拡大コンクール実施要領

第1 目的

麦類は本県における土地利用型作物の基幹作物であり、実需者から生産を強く求められていることから、需要に応じた速やかな作付拡大が必要である。

そこで、平成26年播き麦について、香川県麦作拡大コンクールを開催し、麦類の作付面積の拡大や単収・品質向上により、本県を麦類の産地として復興するとともに、本県土地利用型農業の発展に寄与した担い手等を表彰し、その成績を広く紹介することによって、本県麦作の更なる発展を図るものとする。

第2 主催等

主催：香川県農業協同組合、香川県、香川県農業協同組合中央会

後援：香川県農業再生協議会

第3 参加資格

- (1) 香川県内で小麦「さぬきの夢2009」又ははだか麦「イチバンボン」の生産を行う者であること。
- (2) 経営所得安定対策に加入している経営体であること。
- (3) 麦の作付面積（農業共済引受面積）が、26年産よりも拡大していることもしくは部門毎に定めた下記面積以上の作付があること。
 - ①個人の部4ha
 - ②生産集団の部10ha
- (4) 地域の平均以上の単収生産を確保していること。

第4 参加者の区分

参加者は次の2部に区分し、審査することとする。

- (1) 個人の部
- (2) 生産集団の部

なお、1戸1法人は個人とする。

第5 参加者の推薦及び申し込み

香川県農業協同組合の各営農センターは、地域の優れた生産者について所轄地域農業改良普及センターと協議のうえ、推薦書により申し込む。

第6 審査

- (1) 入賞者の決定は、審査委員会に諮り、公正かつ適正に行うこととする。
- (2) 審査委員会は香川県農業協同組合、香川県、香川県農業協同組合中央会をもって構成する。
- (3) 審査は別に定めた審査基準に基づいて実施する。

第7 表彰

表彰は、審査委員会の決定に従い、次のとおりとする。

- (1) 個人の部 最優秀賞（1点） 優秀賞（3点以内） 特別賞（2点以内）
- (2) 生産集団の部 最優秀賞（1点） 優秀賞（3点以内） 特別賞（2点以内）

上記（1）個人の部、（2）生産集団の部に香川県農業協同組合代表理事理事長名で授与する。

あわせて、各部門の最上位者に香川県農政水産部長賞、香川県農業協同組合中央会長賞を授与する。

- (3) 特別賞 審査委員会の決定に基づき、表彰することができることとする。

※なお、各賞は表彰状の交付と併せ、副賞を授与することができるものとする。

第8 日程

- (1) 推薦期限 平成27年2月末
- (2) 1次審査 平成27年4月上旬
- (3) 現地調査 平成27年4月下旬（1次審査の上位者について調査を行う。）
- (4) 本審査 平成27年7月下旬
- (5) 表彰 平成27年度麦づくり推進研修会（平成27年8月上旬頃）で行う。

第9 事務局

事務局は香川県農業協同組合営農部農産販売課に置く。

第10 その他

その他必要なことは、審査委員会において定めることとする。

審査基準

(1) 1次審査

作付面積および面積拡大を重点にまた前年の単収実績を参考に審査を行い、部門ごとに上位者を選定する。

(2) 本審査

部門ごとの1次審査上位者について現地確認を行い、下記審査項目による獲得点数上位者から最優秀賞、優秀賞を決定する。

なお、詳細な評価方法、配点方法、入賞者の決定等は、審査委員会で行うこととする。

審査項目

項目	内容
作付面積	調書による
面積拡大	調書による
出荷量	10a あたり単収
品質	等級 (1 等比率)
栽培管理	(細目) 排水管理・生育の均一性・ 雑草防除・病虫害防除・総合
その他	農地の集積比率 麦種別作付比率など